

今後の発掘調査計画(案)

総括報告書を刊行した後、過去の調査成果をまとめる中で見えてきた課題の解明に向けて、計画的かつ継続的な発掘調査を史跡指定地内で実施していきたい。

今回はH29・30年度の事業計画案を示し、次回の編集部会で調査研究体制案を示したい。

【事業計画案】

年度	事業内容等
H29	市史跡保存整備委員会に(仮称)史跡加曾利貝塚調査指導部会を設置 ⇒総括報告書の成果に基づき課題を抽出し、発掘調査計画の検討に着手
	地中レーダー探査による貝層範囲、過去の調査地点等の情報収集 ⇒発掘調査計画の策定にあたり、調査地点の検討に活用
	北貝塚貝層断面観覧施設の再調査 ⇒施設改修に先立ち、貝層断面全体を15～20cm程度発掘 貝層の形成過程を解明し、改修後の展示に反映
	発掘調査・整理作業の公開(以後継続) ⇒現地での発掘調査、現博物館での整理作業の公開、調査成果の展示
H30	地中レーダー探査による貝層範囲、過去の調査地点等の情報収集(2年次)
	北貝塚貝層断面観覧施設の再調査(2年次)
	発掘調査計画の策定
H31～	発掘調査計画に基づく計画的・継続的な発掘調査に着手

【発掘調査計画の検討にあたって】

1. 将来にわたって追及すべきこと

- (1) 集落の構造とマウンドの形成過程(両者の関係性)
- (2) 自然環境と生産活動の時間的変化
- (3) 他地域・他遺跡との経済的関係
- (4) 貝塚調査と遺構保存の社会還元(人材育成・体験の提供など)

2. 従来調査が残した問題点と課題

- (1) 層位・遺構を特定できる土器が乏しく、時期の根拠が不明瞭 ⇒新規の調査が必要
- (2) 調査地点・遺構の相互の位置関係に矛盾が散見される ⇒測量による確認が必要
- (3) 比較分析が可能な動植物資料が乏しい ⇒新たなサンプルの採取が必要
- (4) 詳細な検討が可能な貝層断面図が無い ⇒断面図の作成と剥ぎ取りが必要
- (5) 住居跡・土坑の形状が不明確(短期調査・トレンチ調査の弊害) ⇒平面調査が必要
- (6) 地形要素に対する調査地点の不足 ⇒斜面・低地での調査が必要

【調査候補地点と調査目的】

1. 北貝塚貝層断面観覧施設（クリーニング・実測・剥ぎ取り・サンプル採取）

現在の断面を剥ぎ取り転写した後、15～20 cm程度発掘し、露出展示できるよう断面を整える。その過程で、各層の時期の根拠となる土器や貝種組成等を把握するためのブロックサンプルを採取し、その情報を展示に反映させる。

剥ぎ取った断面は調査終了後の詳細な観察・検討に用いるとともに、展示・貸出し資料としても活用する。

2. 南貝塚貝層断面観覧施設（クリーニング・補修・実測）

剥ぎ取り断面のクリーニング・補修と併せ、現在の知見・問題意識に基づき貝層を分層し、実測図を作成する。

3. 北貝塚・南貝塚の接続部分（トレンチ調査・実測・剥ぎ取り・サンプル採取）

アスファルト敷の北貝塚外周歩道・電源ケーブル・砂利敷道路を横断し、南貝塚北西側の貝層の高まりに到達するトレンチを設定し、南北貝塚の関係（マウンドは連続して形成されたか、南北に区別できるか）を調査する。

4. 北貝塚第1調査区第2地点を含む周辺（平面調査）

138号住居跡(旧上層住居址 加曽利B3式期)・139号住居跡(旧下層住居址 加曽利E I式期)が上下に重複する地点。138号は平面軽が捉えられていない。139号は2.5×1.5mの範囲のみの調査で終了している。トレンチ壁面にブロック状の純貝層が記録されている。

138号住居跡の壁・柱穴・出入口を確認するとともに、北貝塚の後期後葉以降の貝層サンプルを採取する。

5. 南貝塚Iトレンチ・IVトレンチ交点付近（平面調査）

C地点の窪地側で、81号住居跡(旧19号 安行?式期)と65号住居跡(旧5号 加曽利EIV式?)がかかるとの範囲。81号は方形の平面形と思われ、6割強が調査済みだが出入口部を含む一辺が未調査。65号は断面で炉跡を確認したほか、床面範囲も記録に残っていない。

市原市祇園原貝塚の事例から、加曽利B式～安行2式頃までの住居跡が集中する可能性が高い一画である。

南貝塚と集落の関係性を確認するとともに、81号の出入口方向を確認し、時期決定資料を獲得する。また、旧トレンチの交点を確認し、再測量を行う。

6. 南貝塚IIトレンチ・VIトレンチ交点付近（平面調査）

A地点の窪地側で、76号住居跡(旧15号 加曽利B?式期)がかかるとの範囲。76号は大部分が未調査と思われる。上記のIトレンチ・IVトレンチ交点付近同様、住居跡が集中する可能性が高い一画である。

76号の形状と出入口方向を確認し、時期決定資料を獲得する。また、旧トレンチの交点を確認し、再測量を行う。

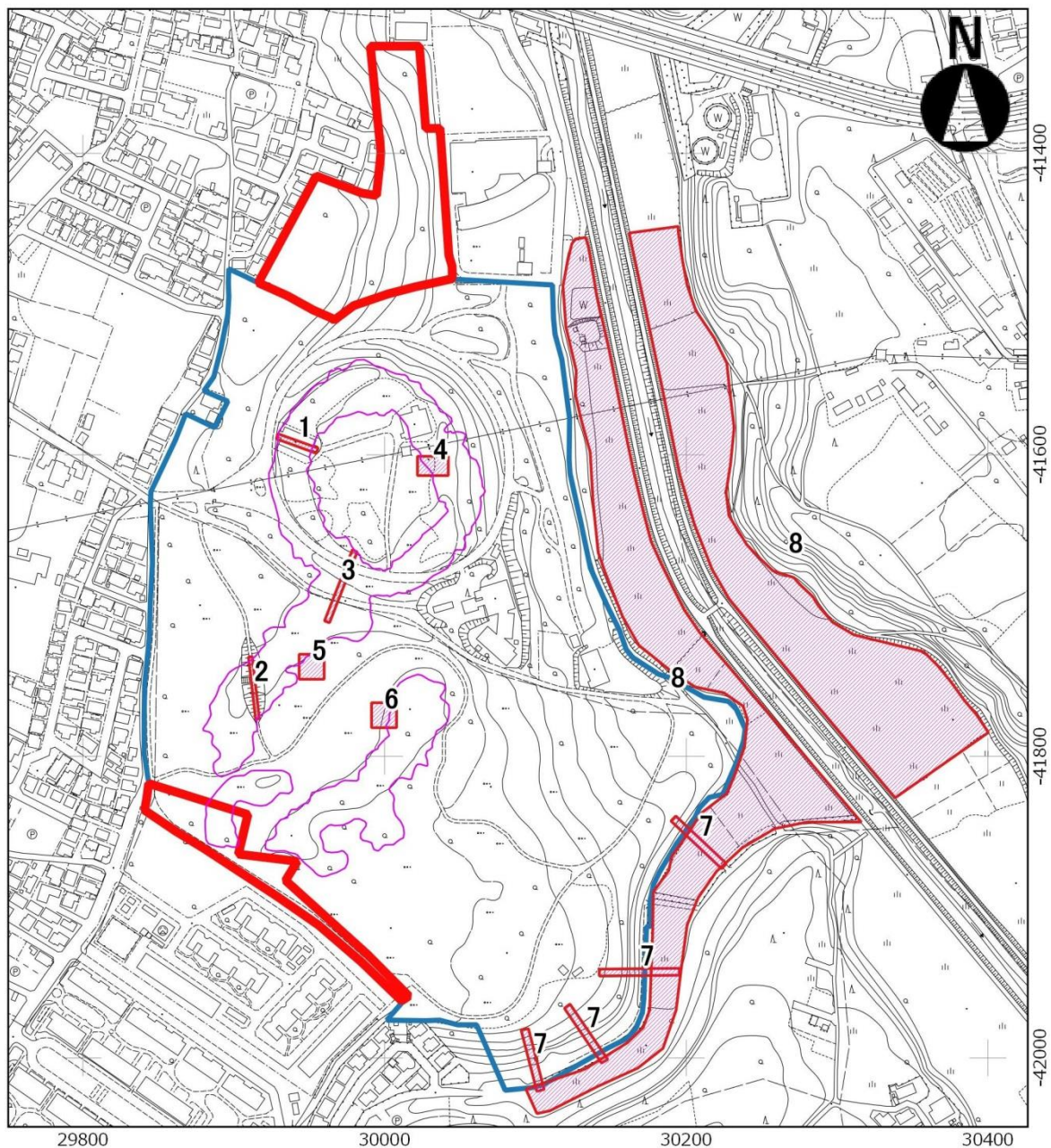
7. 東傾斜面南東側斜面と低湿地（トレンチ調査）

比較的急な東から南向きの斜面で、酒々井町伊籾白幡遺跡や市原市祇園原貝塚で堀之内1式期の住居跡が最も密集していた地形に当たるが、加曽利貝塚では未調査で、斜面利用の状況が把握できていない。

低湿地ではアク抜き施設などの生産遺構、木道や舟着き場など交通に関わる遺構、生産に関わる大形植物遺存体や鳥獣魚骨などが期待できる。

8. 坂月川低地（ボーリング調査）

花粉・珪藻・粒度などの地質・環境データを採取する。大口径ボーリングを加えることで、土器の採取・年代測定用サンプルの採取も可能。



学術調査候補地点（事務局案）